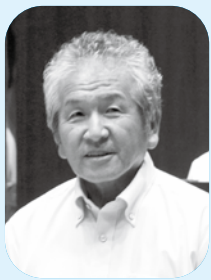


東 久延 議員

(一問一答方式)



- ①森林資源を活用した地域活性化策について
- ②一級河川肱川について

森林資源を活用した地域活性化策について

問 未利用の森林資源を市内で木質チップとして活用することで、森林資源の価値を高める取組が他の自治体で行われている。バイオマス活用の推進を図るため、大洲市でも実施する考えはないか。また、林業関係への従事を希望される移住者に対して活用可能な補助金や支援制度について伺いたい。

答 本市が有する豊富な森林資源を再生可能エネルギーとして活用することは、カーボンニュートラル社会の実現に向け、市としても取り組むべき重要な課題であると認識しています。とりわけ木質バイオマスは、立木を伐採する際に発生する製材として利用されない枝や元撥ねなど、いわゆる林地残材を活用できることから、カーボンニュートラル社会の実現に向け有効な資源であると考えます。

現在当市では、林地残材の一部を木質バイオマス資源として市外のバイオマス発電事業者へ供給していますが、市内でのエネルギー循環利用環境は整っておらず、大洲市エネルギービジョンなどに基づいた活用を検討中です。

資源が豊富にあるにもかかわらず対応ができていない理由としては、木材価格の低迷や担い手不足により木材生産量の増産が難しいことが要因として上げられます。

今後、伐採適齢期を迎える森林が放置され大径化していく中、新たな林業従事者の確保や育成は喫緊の課題となっており、新規就業を希望される移住者向けの支援制度を令和2年度から設けています。具体的には、市内の認定林業事業体に就職された方に対し、移住に要する経費等を支援する大洲市林業就業者支援給付金給付事業のほか、自伐林家向けの事業として、林業機械の導入経費の

一部を支援する大洲市林業経営支援モデル事業により支援を行っています。

また、林業部門の地域おこし協力隊を採用し、担い手の確保、育成という課題にも取り組んでいます。この課題には、分野の垣根を越えた各協力隊員が任意の団体を結成して里山の再生というミッションを掲げ、放置森林、放置竹林の対策、耕作放棄地の解消や観光農園の可能性等を模索しながら、同じ意識の若者を広く取り込もうとしています。この里山の再生の一環として、伐採跡地や耕作放棄地の開墾跡地には、ハゼなどの有用広葉樹を植え込み、かつての彩りのある里山の復興を目指したいと考えています。

さらに、森林資源を活用する製造業や小売業については、大洲市内で新たに企業や立地をされる場合、創業補助金や企業立地奨励金などの対象としています。

一級河川肱川について

問 肱川緊急治水対策による堤防整備などが完了し、治水安全性は向上したが、堤防整備に合わせて実施した河床掘削や河川区域内の樹木の伐採は、生態系に対して影響はないのか。また、これから先も河道掘削を続けてもらえるのか伺いたい。

答 河道掘削は、良好な水域や水際環境の保全、礫河原の保全・創出のため、平水位以上または平均河床高以上で実施されています。また、継続的なモニタリングにより、多様な動植物の生息、生育、繁殖環境の変化を把握し、保全を図りながら実施されていますので、生態系への影響は少ないものと理解しています。

また、肱川緊急治水対策では、3段階目の対策として、平成30年7月洪水と同規模を安全に流下させるためにさらなる河川整備等が実施され、その中で河川整備計画に位置づけられた箇所河道掘削が順次実施されると聞いています。また、局所的な土砂堆積や樹木等の繁茂が確認された場合は、適宜維持掘削を行うなど、河道の適正な維持管理に努めるとされています。